

## 答 辞

学長先生をはじめ、日々ご指導くださった先生方、本日は私たちのために卒業式を開いてくださり、誠にありがとうございます。

卒業の日にあたり、私は、自分の大学生活は充実していたのか、本当に真面目に勉強したのか、人生の糧（かて）になったのか、思い残したことは無いのかと考えます。しかし、どのようであっても、この4年間は人生の消えない1ページとして残ります。

私が日本に来たのは偶然でしたが縁とも言えます。2015年はちょうど日本観光ブームのピークでした。観光ブームに乗って、私は両親と一緒に日本に来ました。言葉は全くわからず、理解できない文字もあちらこちらに書いてありました。不安と心配で一杯でしたが、笑顔が溢れている国で、安心して一週間過ごせることができました。例えば、飛行機から降りたとき、私と両親のスーツケースは、すでに色ごとに分けて置いてありました。また、難波にある居酒屋では、一生懸命ボディランゲージで味噌汁の飲み方を教えてくれたおじさんと出会いました。これらの体験は、日本に留学するきっかけとなりました。人情味あふれるこの大阪で、私は日本のおもてなしの精神を勉強したくなり、4年前の4月、この大学に入学しました。

一年生の前期に、道の駅の実習科目を履修しました。道の駅のことさえ知らなかった私は、二日間の講義を受けた後、はじめて一人「旅」に出ることになりました。道の駅について何となくイメージできましたが、ビジネスマナーを知らない私にとって、実習は大変緊張しました。遅刻しないように、開始時間の遙か前に最寄り駅に着いてGoogleマップで道の駅を探そうと思った時、「トウさん、こっち」という声が聞こえました。振り返ると、大学のスタッフの方でした。「道の駅は実家の近くなので、ついでに来た」と言って、私を送ってくださいました。そのスタッフの方は道の駅で、私の代わりにビジネスカードを実習先の方々と交換して挨拶してから、また大学に戻りました。実家の近くとはいえ、大阪からだいぶ離れていましたし、夏休みの最中でした。その時、私は、感謝の気持ちをどのようにして表わせればよいのか分かりませんでした。

大学3年生の時、次の引っ越し先がまだ見付からないまま、住んでいたマンションを軽率に解約をしてしまいました。不安でどうしたらいいのかわからなかったとき、先生たち、友達からアドバイスをもらいました。学生支援課の方が市内に学生寮を持つ財団と何回も話し合い、ファミリータイプのお部屋に住めることになりました。いつも私のために支援してくださった方々に感謝いたします。

学生の皆さま、この4年間の授業をどう思いましたか？難しかったですか？めんどくさかったですか？私にとって、実用性のある授業が多くありました。例えば、交通学の授業

では、受講する前、私はYahooの乗り換え案内アプリが示す通りに切符買ったり、ICカードチャージをしていました。しかし、授業で周遊券、私鉄のお得切符の存在を知ってから、新しい世界が開けました。近鉄週末フリーパス一枚4200円で大阪から伊勢志摩までの三日間の乗り放題となるように、あらかじめ入念に観光プランを立てれば、大節約ができることが分かりました。

また、経済学の授業では、不況のとき、一般的に物価は下落しますが、その国の政府は金利を引き下げるなどして金融緩和策を取ることが多いことを学びました。現在コロナによる全世界の不景気が続いています。このような経済学の視点から、各国政府が取っている政策の優劣が判断できます。

英語は世界共通語とも言われる言語です。大学にはネイティブの先生がおられます。私は全ての英語の科目を履修し、オフィスアワーを利用し、もっとうまく話せるように多くの練習をしました。これは、将来世界中のどこで働くのにもきっと役に立つと思います。

2019年には本学から推薦され、大阪G20サミット学生通訳ボランティアの一員になりました。英語能力と大学で学んだ観光知識をいかして世界各国の記者と対話し、大阪、関西の魅力を伝えましたが、それは私の人生の重要な出来事の一つになりました。

大学3年生の末頃、イスラム教徒の友人ができたこともあり、急にイスラム教に興味を持つようになりました。佐久間先生のスタジオの授業でイスラム教とその文化を学ぶとともに、実際に神戸モスクへ見学に行き、専門家から話を聞くことができました。イスラム教について学ぶことによって、宗教や民族に関する偏見がなくなりました。

大学の学びで得たものは、これだけではありません。職業指導の授業で、泉佐野市で農業体験をしました。その後青森のリンゴ収穫体験もしました。また、道の駅、阿蘇の実習、大学3年生の時の会社のインターンシップなどなど、それらの体験は、私に莫大な影響を与えました。この4年間の大学生活は私にとってほんとうに貴重な経験でした。さまざまな問題を多角的な視点でながめ、解決して行くことが大切であると分かりました。また、学びで得たものはすぐに役に立たなくても、いずれ社会に様々なかたちで還元できると思います。

最後に改めて4年間私たちを支えてくださった方々すべてに卒業生一同、心よりお礼申し上げます。有意義な大学生活を送らせて頂いたこの大阪観光大学の更なる発展と、私たちの後輩がさらに学問に専念できる環境が整っていくことを祈念いたしまして、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

卒業生代表 トウナイチン